

人物像がイメージされてしまいます

大きなスーパーやホームセンターに出かけたとき、店の出入り口に近いところに駐車スペースを探す人が多いのではないのでしょうか。私は逆です。遠いところのスペースをみつけて駐車します。

近いところにこだわって駐車する人の中には、もちろんそれなりの事情がある方もいるでしょう。しかし、往にして、店までの移動距離の長さや荷物の重さを敬遠する人が多いような気がします。それだけならまだしも、出入り口近くには、わがままな駐車の仕事をしている車が多く、斜めに入っていたり、時には駐車線をまたいでとまっていたりするものもあります。

そういう状況を見ると、「そういう人の隣には車をとめたくないなあ」と正直思います。わがままなとめ方が、無神経なドアの開け方を連想させるからです。傷つけられたら、もちろん自分は嫌だし、相手もいい気分にはならないでしょう。そう考えると、多少距離があっても、遠くに駐車した方がよいと思えます。

自転車のとめ方について、K主幹教諭が生徒のみならず、自転車のとめ方を送っています。自転車通学者に限らず、生活のいろんな場面で同様のことが言えますからね。

さらに私は、自転車の置き方一つであなたの人物像がイメージされてしまうということも付け加えたいと思います。事情はあるかもしれませんが、それも含めて、みんなですらう自転車置き場をどのように使うべきか。それが判断でき、実行に移せる人間に皆さんがなることを私は期待しています。

もう一つ、付け加えます。駐車するときに私が敬遠するスペースは、汚い車の横です。車の扱い方がわかる気がするからです。美しさからも人物像が見えてきますよね。教室も同じではないでしょうか。家のあなたの部屋は

(七月十七日 記)

一日の始まりにちょっとした気遣いを

現在、自転車通学の許可を受けている人は58名。そして、各学年に割り当てられている自転車置き場は4ブロックずつ、各ブロックに4、5台置くことになっています。ところが昨日は、右の写真のように置いてあるところがありました。おそらく最初に置いた自転車が斜めだったのでしょう。左のスペース少なくなり、一番左の一台は屋根からはみ出していました。その他にも、前から停めてはいるものの、「整然」とはほどよい置き方がされているものも多く見られました。気にならない人もいるでしょう。でも、駐輪場は公共の場です。近くを通る人もたくさんいます。全ての人が気持ちよく感じられる。そんな気遣いのある停め方を、一人一人が心がけてほしいものです。

